

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 33 号

第 33 週(8月 15日 ~ 8月 21日)

発行年月日:平成17年(2005年) 8月 25日

発行 : 滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (33週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (33週)	全国 (33週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 6	350	9	576
	腸チフス	0	0	32	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	10	2,000	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 31	1	34
	A型肝炎	0	1	^{(*)3} 129	0	136
	オウム病	0	1	26	1	39
	デング熱	0	1	27	2	45
	マラリア	0	0	44	2	73
	レジオネラ症	0	1	139	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	0	2	441	8	580
	ウイルス性肝炎	0	1	185	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	90	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	38	1	53
	後天性免疫不全症候群	1	4	736	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	45	2	85
	梅毒	0	0	335	4	516
	破傷風	0	0	61	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	48	0	49
急性脳炎	0	2	^{(*)3} 127	1	164	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。
*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。
*3:平成17年第31週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

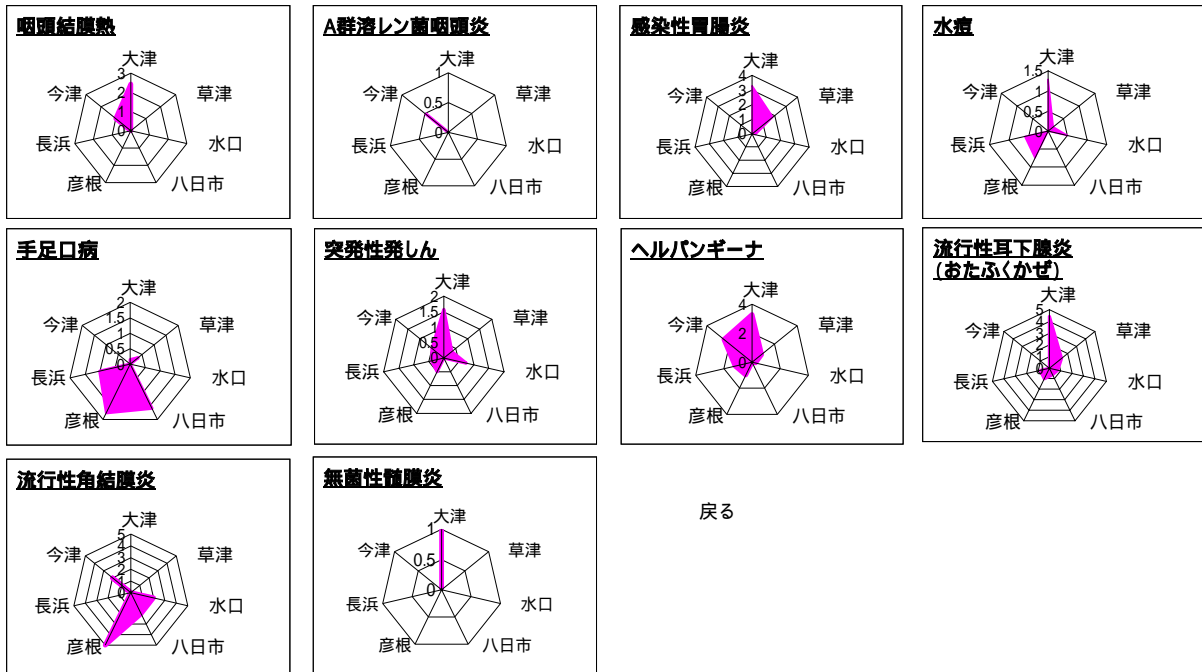
(1) 疾病別・週別発生状況(第28~33週、7/11~8/21)

疾患名	定点当たり患者数(前週より増加 前週と同じ 前週より減少)						週				
	28週	29週	30週	31週	32週	33週	29	30	31	32	33
	(7/11~)	(7/18~)	(7/25~)	(8/1~)	(8/8~)	(8/15~)					
インフルエンザ	0	0	0	0.04	0	0					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱	0.88	0.82	1.00	0.91	0.88	0.58					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55	0.30	0.03	0.61	0.24	0.03					
感染性胃腸炎	2.03	1.85	1.85	1.82	1.30	1.06					
水痘	1.00	0.94	0.55	0.48	0.48	0.55					
手足口病	1.27	1.15	0.82	0.91	0.55	0.70					
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0.09	0.21	0.06	0.03	0					
突発性発しん	0.94	0.48	0.70	0.55	0.48	0.64					
百日咳	0	0.03	0	0	0	0					
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0	0	0					
ヘルパンギーナ	5.00	4.39	4.12	3.15	2.67	1.33					
麻しん(成人麻しんを除く)	0.03	0	0	0	0	0					
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.45	0.70	1.42	1.03	1.27	1.61					
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0.57	0.71	1.00	0.14	0.57	1.57					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0	0	0	0.43	0	0.14					
マイコプラズマ肺炎	0	0.14	0	0.14	0	0					
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0					
成人麻しん	0	0	0	0	0	0					

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第33週、8/15～8/21)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.58	2.43	0	0	0	0	0	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50
感染性胃腸炎	1.06	3.29	1.83	0.25	0	0	0	0
水痘	0.55	1.29	0.17	0.50	0	0.75	0.60	0
手足口病	0.70	0.14	0.33	0	1.60	1.75	1.00	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.64	1.57	0.33	0.75	0	0.50	0.40	0.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	1.33	3.29	0.83	0.25	0	1.00	1.20	2.50
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.61	4.43	1.33	0.75	0.60	1.00	0.80	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	1.57	0	0	2.00	2.00	5.00	0	2.00
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。咽頭結膜熱は先週より減少しているものの大津および今津で多くなっています。感染性胃腸炎は草津において先週よりかなり増加しており、突発性発しんは大津で多くなっています。また、無菌性髄膜炎は大津から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間の単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、流行性角結膜炎の発生は昨年の同時期より増加傾向

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(8月8日～8月14日)の報告数よりさらに少なくなっていますが、水痘、手足口病、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎等の発生は増加しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、全数報告感染症については腸管出血性大腸菌感染症2名および後天性免疫不全症候群1名の届出がありました。

手足口病については、第28週(7/11～7/17)以降減少傾向を示していましたが今週は先週の定点当たり患者数よりやや増加し、八日市、彦根および長浜保健所管内からの報告が多くなっています。

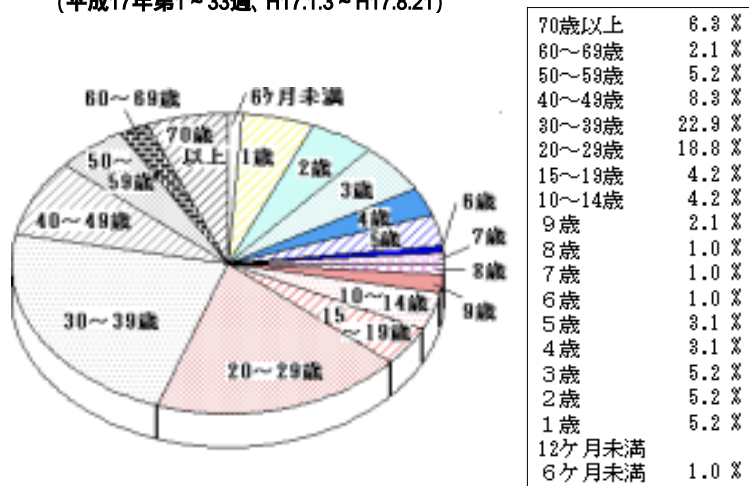
ヘルパンギーナについては、先週の定点当たり患者数2.67よりさらに減少し1.33となっていますが、大津および今津保健所管内における定点当たり患者数はそれぞれ、3.29、2.50とやや多くなっています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、昨年の同時期の定点当たり患者数0.39よりかなり多く1.61となっています。特に、大津保健所管内においては第26週(6/27～7/3)以降多い状態で推移しています。また、全国の発生状況についても昨年の同時期より増加しています。

流行性角結膜炎については、昨年同時期よりかなり多く発生しており、特に彦根保健所管内において増加しています。また、全国においては昨年とほぼ同様の発生状況となっています。

流行性角結膜炎の年齢別発生状況

(平成17年第1～33週、H17.1.3～H17.8.21)



<流行性角結膜炎のミニ知識>

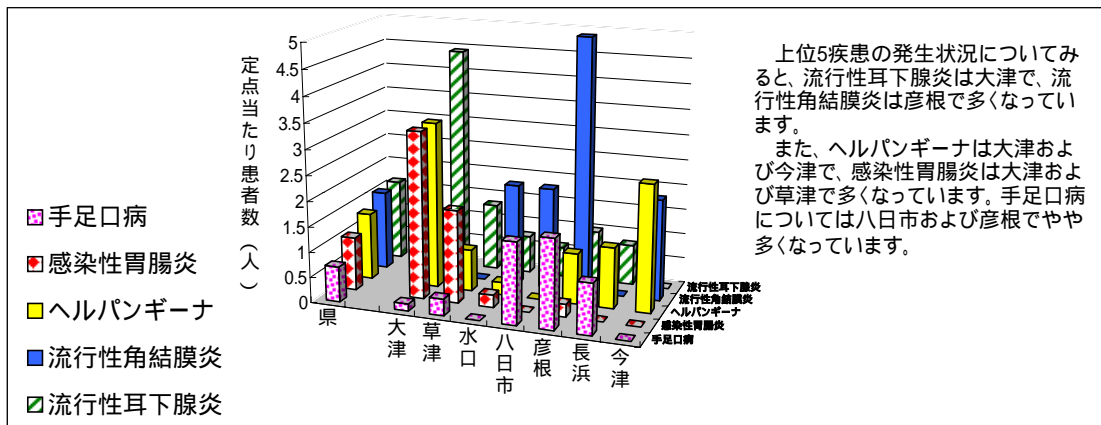
アデノウイルス(D群)に感染することにより起こる疾患です。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染により角膜穿孔を起こすことがあるため注意が必要です。

また、8月を中心として夏季に多く発症し、1～5歳を中心とする小児に比較的多く発症していますが、成人を含む幅広い年齢層に発生しています。

- ・感染様式: 接触感染
- ・潜伏期: 8～14日
- ・臨床症状: 突然の発症、眼瞼(まぶた)の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹
- ・治療: 抗炎症剤の点眼
- ・予防: 患者の分泌物、ウイルスにより汚染されたティッシュペーパー、タオル、洗面器等に触れないようにする。また、手洗い、消毒をきちんとする。

定点把握の対象となる5類感染症における上位5疾患の保健所管内別発生状況

(平成17年第33週、H17.8.15～H17.8.21)

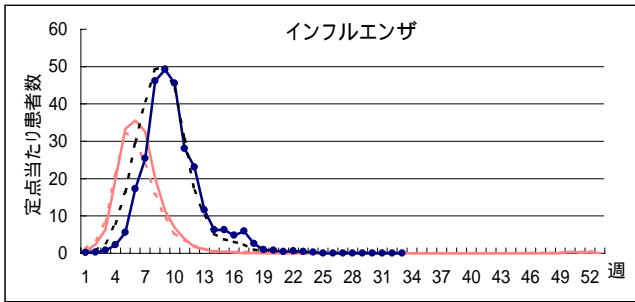


上位5疾患の発生状況についてみると、流行性耳下腺炎は大津で、流行性角結膜炎は彦根で多くなっています。

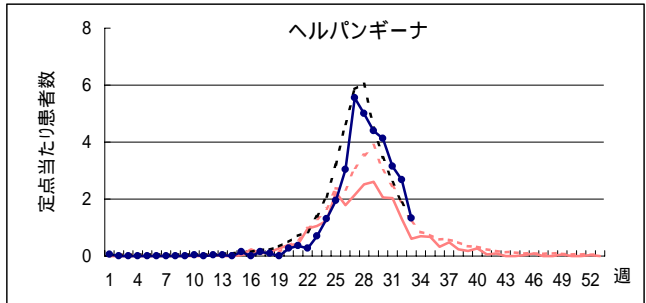
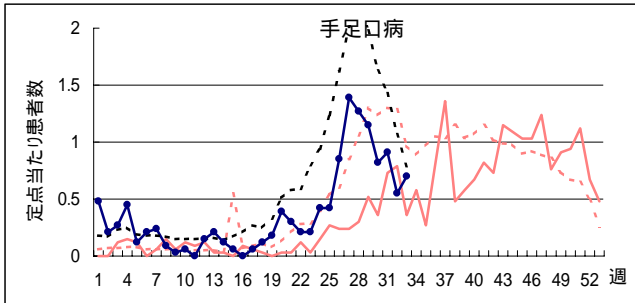
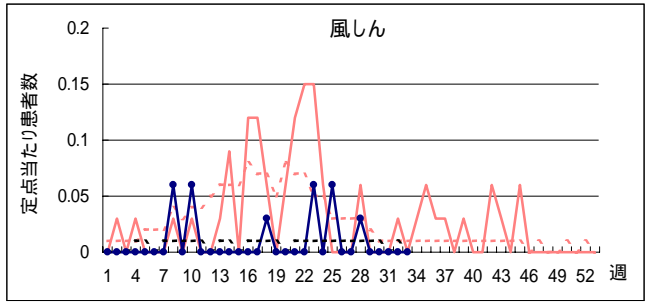
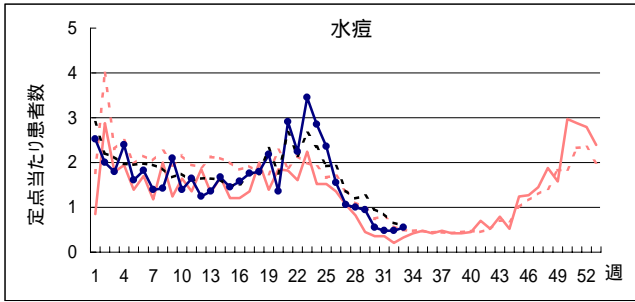
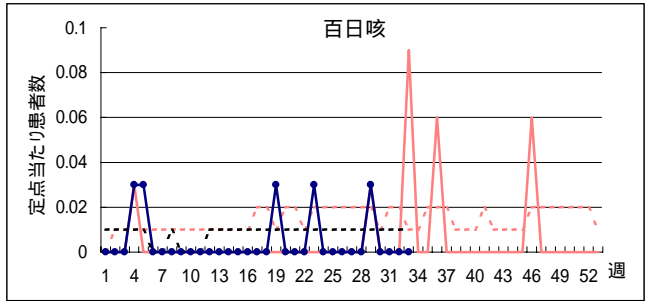
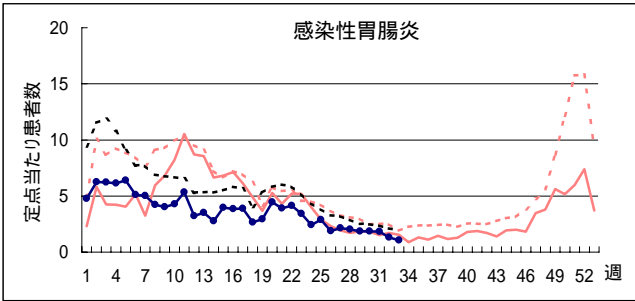
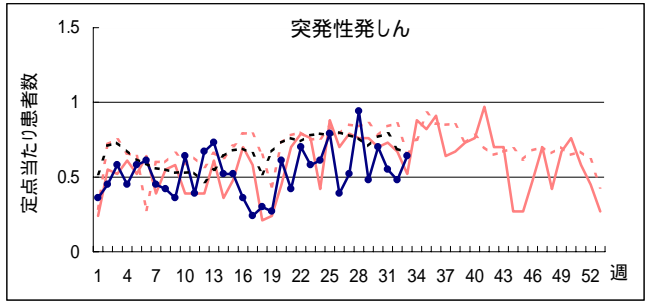
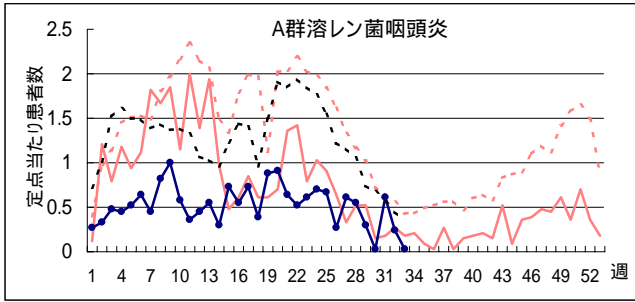
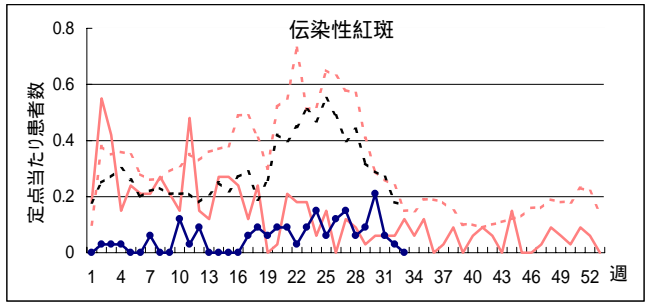
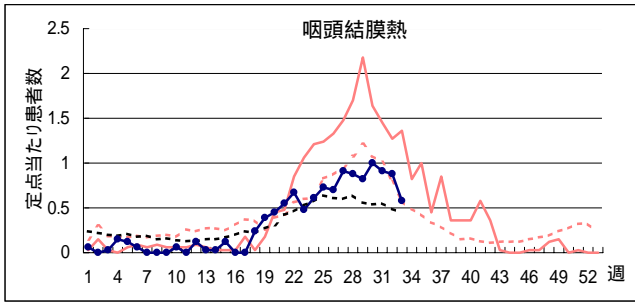
また、ヘルパンギーナは大津および今津で、感染性胃腸炎は大津および草津で多くなっています。手足口病については八日市および彦根で多くなっています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第33週、H17.1.3～H17.8.21)



H16 { 滋賀 ————
 全国 ······
 H17 { 滋賀 —●—●—
 全国 ······



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第33週、H17.1.3～H17.8.21)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

